

兵庫民医連 東日本大震災 支援ニュース

県連内の動き【4/19(火) 17時現在】 震災発生から40日目 **第31号**

【法人の支援状況と動き】

各法人の支援状況 全国で 2,119名 の支援 (4/18 日現在)

【本日までの支援参加者数】

尼崎医(26) 共和会(28) 神戸医(23) 姫路医(6)
クリエイト(2) 駒どり(9) はあもにい(3) ヘルス(1)
たじま(2) 県連等(6) **合計:106名**

【今後 支援予定者】

4/21~27 尼崎医 3名
4/22~30 県連 1名

本日、駒どり3名(25日まで)出発

現地支援者

【**尼崎医**】山口組合員活動部課長、塩見看護師(病院外来)、富永訓志事務(医学対)、たじま医療生協の西垣組合員

【**神戸医**】宮本臨床工学士、横治事務(いたやどクリニック)

【**共和会**】芝切事務長(生診)

【**姫路医**】野邑看護師、安東介護福祉士

法人の動き

【本日の午後4時までに届いた各法人のニュースに基づいて掲載しています】

【**尼崎医**】第5次は、訪問看護ステーション菜の花の西村栄子所長、潮江診療所の石本典子看護主任、尼崎医療生協病院の多田安希子・医療福祉相談室副主任と、けいはん医療生協の平田明美介護福祉士の4名の予定です。

【**神戸医**】本日 17時30分~18時40分 協同病院南館3階にて現地支援報告集会が予定通り開催されます。お忙しい中ですが、ぜひご参加下さい

【**共和会**】本日、第2回支援報告集会を17:30~医薬研3階で開催します。

尼崎医療生協「みやぎ県南医療生協」へ支援

定款地域・沿岸部の大規模避難所には支援の手が入っていない

みやぎ県南医療生協の支援継続に向けて、尼崎医療生協の瀬井組合員活動部長ら3人が被災地を14、15日に訪問、被害実態と支援のあり方を視察、現地の医療生協と意見交換しました。以下、瀬井さんからの報告の一部です。

クリニックとデイサービスセンターの宮城県柴田町は甚大な被害には至りませんでしたが、同医療生協の定款地域である東側の沿岸部、2町、1市に100人程度の組合員がいます。その地域を支援の対象としています。山元町では610人が死亡、190人が行方不明。初期の段階では2,050人の大避難所も。駅ごと流された町が山元町です。海から3キロの地点まで津波が押し寄せ、すべての建物がなくなっている状況。その北隣の亘理町は246人が死亡し、40人が行方不明。1,700人が避難しています。私(瀬井)の感想としては、1,000人や500人規模の避難所には支援物資はあるものの、行政が入っておらず、仕分けもできず、被災者個々人のニーズと支援がマッチングしていない状況。しかし、避難者は不満を口にすることなく我慢している感じです。1ヶ月も経過しているが悲惨な生活状態が続いています。150人で2つの棟となりたっている避難所では大規模避難所に比べ、明るい雰囲気。早く避難所規模を小さくしていく必要があると切に感じました。行政の建て直しが急務と感じました。

機能していない行政、町長は避難所も訪問していない

山元町の町長は「山元町には津波はこない」と言いづけて避難訓練もあまりしなかったことから、住民に顔合わせができないらしく(専務情報)、一度も避難所をまわっていない(町会議員情報)らしく、行政のリーダーシップが不在の模様。町会議員とも力を合わせ(県会議員や国会議員の力も借りてはどうか)、

尼崎からの支援物資の靴を履いて「ぴったりだ」と喜ぶ被災者。笑顔が素敵です。



早速な避難所対策（少なくとも、物資が届いているのに被災者に届いていない状況や健康管理、入浴等）が必要と思われます。大規模避難所の山下中学校では4月25日から学校再開されるため、シェルター（外国製としっかりしたテントだが、やっぱりテント生活）や他施設への異動が計画されています。デイサービスセンターから避難所まで車で30分。4月3日から尼崎の第4次医療支援隊がはじめて県南入りし、通常のデイサービス事業が終了した後、避難所から送迎をして入浴サービスを行い、大変喜ばれました。

現地主導での継続した支援の継続が望まれる

長期的に見た場合、あくまで支援の主役は現地の医療生協が望ましく、それをサポートするために全国から支援という体制の確立が望まれます。デイサービス施設予定の施設があり、そこを拠点に支援の継続は可能と思われます。全日本民医連、医療福祉生協連にこのことを報告し、体制確立に努めたいと思います。

【現地レポート】

姫路医 野邑看護師

総勢24名で9時に東京を出発。バス乗車時にマスクとヨウ素剤を渡されました。坂病院到着後の説明では外来および当直、避難所まわり、地域訪問が主な業務だそうです。避難所では高血圧や精神的ケアの必要な方が多く、また外見上正常な家屋でも内部の被害があるとミーティングでは報告されていました。支援者の食事は3食確保してくださっています。私は明日午前が病院で午後が避難所、安東さんは終日避難所が担当になりました。2人で被害状況を見に行ったところコンビニ・飲食店・GSなど開いているところも多くあり、街の機能はある程度戻っていました。しかし少し離れると津波の爪痕がまだまだ残っています。



避難所からテント生活へ。組み立ての練習をしていました

姫路医 安東介護福祉士

夕方のミーティングによると現在大きな混乱は無いようですが、隣の気仙沼市は依然としてよくない様子です。明日からの任務は避難所での介護になりそうです。街はあまり活気がないもののマックスバリュも営業しており物資で困ることは無いようです。清掃はされていますが自動車やトラックなどは撤去が追いついておらず、イオンのショッピングモールなど大型の建物は復旧しきれていませんでした。明日からの任務も頑張っていきたいと思います。

県連 前田事務局次長

昨日、被災地を見てきました。1ヶ月経っても瓦礫だらけです。自衛隊や警察もひきつづき片づけています。ただ、避難所の環境が悪く、多賀城体育館500名や文化センター400人程が避難されています。夜間の避難所訪問も行っています。部隊は夜9時ごろまで活動しており、兵庫のメンバーも一緒です。宮城野の里などの避難所3カ所で自衛隊の食事支援が近く撤退予定。その後、宮城セントラルキッチンが担当。そのため、支援者の食事も対策本部がセントラルまで取りに行くことになりました。本日はとても寒い朝となっています。本日の支援者118名。徐々に増えているような感じです。

【宮城・坂総合病院に支援に入られるみなさんへ】

持ち物等について現時点での案内について「宮城・坂総合病院に支援に来ていただける方へのお願い」文書が2011年4月15日付で宮城県・民医連震災対策本部から発行されていますのでご確認ください。

法人別救援

募金集約

21,856,174円

(4/19現在)

尼崎医グループ	6,269,680円	たじま医	623,620円
共和会グループ	6,896,139円	駒どり	2,033,147円
神戸医グループ	3,400,029円	はあもにい	100,000円
宝塚グループ	639,219円	県連・兵医協	491,000円
姫路医	1,403,340円	合計	21,856,174円